

PORT OF THE YEAR 2024

情報誌「港湾」の読者が選ぶ ポート・オブ・ザ・イヤー 2024に 小樽港 [小樽市] が決定！

情報誌「港湾」では、港湾の物流、人流、産業、観光、みなとまちづくりなど各種港湾活動その他みなとに関する話題づくりに、その年で最も優れ、わが国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾を「ポート・オブ・ザ・イヤー」として、2003年より選定しています。

今年度は推薦書を公募して、応募のあった「小樽港」、「大井川港」、「高松港」の推薦書を掲載した上で、10月1日から11月29日まで投票を募り、全国から多くの投票をいただきました。

16港・2グループに投票があり、集計の結果、小樽港をポート・オブ・ザ・イヤー 2024に選定いたしました。

ポート・オブ・ザ・イヤー 2024 小樽港

■「みなとの元気」を高めたと評価された点

小樽港に投票された方の投票用紙の「選定の理由」欄には、以下の趣旨の記載が多くあり、「みなとの元気を高めた」と評価されました。

- 古くから物流の拠点として栄えてきた歴史ある港であるとともに、近年では世界中からクルーズ船が多く寄港している。歴史的な景観を有する街並みと新しい港の風景が見事に融合し、風情ある港湾空間を形成。
- 小樽運河など観光拠点や市内中心にも近い第3埠頭で大型クルーズ船岸壁の供用が令和6年4月に始まる。クルーズ船寄港の増加とともに、利便性の向上や賑わい創出による観光振興に大きく貢献。
- 大型クルーズ船岸壁供用と同時期にみなとオアシス小樽の登録。中心施設である小樽国際インフォメーションセンターは、小樽地域の情報発信、飲食や物産販売など、多くの観光客・市民で賑わっている。
- フェリー小樽新潟航路が就航50周年という記念すべき年。フェリー航路の玄関口として長年にわたり北海道と本州の物流・人流を支えてきた。
- 夏の祭典である「おたる潮祭り」などイベントが盛ん。



選定された小樽港に対して賞状及び楯が授与されるほか、情報誌「港湾」2月号に同港の「みなとの元気」紹介記事が掲載されます。

授賞式は、令和7年1月22日に執り行われます。